

授業科目名： 陸上演習	教員の免許状取得のための 必修科目（選択科目）	単位数： 2単位	担当教員名：渋谷 聡、 秋澤 一輝 担当形態 オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
「学位授与の方針」との関係 A から F の項目すべてに該当する。			
授業の到達目標及びテーマ （1）陸上の教材の作り方を修得する。 （2）陸上の指導法を、主体的で対話的な深い学びを通して修得する。 （3）陸上の教材づくりや指導法の振り返りを通して、陸上の楽しさを伝える力を身に付ける			
<p>授業の概要</p> <p>陸上に含まれる「走る、投げる、跳ぶ」という行為は、多くの運動やスポーツの基本であり、小学校、中学校、高等学校の体育授業でも行われている。しかし、発育発達段階や運動経験、様々な特性によって、「走る、投げる、跳ぶ」ことの個人差は決して少なくない。それにも関わらず、体育実技では一斉指導や競争が多く行われ、上手くできない生徒への個別指導があまり行われていない。また、「走る」ことが、何らかの罰ゲームの1つとして「グラウンドを走る」という負の報酬としてされていることから、「走る、投げる、跳ぶ」という楽しみを生徒に十分学ばせているとは言えない。</p> <p>本授業では、「走る、投げる、跳ぶ」という行為が苦手な生徒や得意な生徒に対する教材づくりや、主体的で対話的な深い学びを中心とする指導法を修得させる。なお、この授業を通して、「走る、投げる、跳ぶ」ことの楽しさを体験することによって、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなライフスタイルを実現する」ためにどうすればよいかという問いに解答できるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：陸上の価値：楽しさとつまらなさ</p> <p>第2回：陸上で何を学ばせるか</p> <p>第3回：陸上（走る、投げる、跳ぶ）の動きの分解</p> <p>第4回：陸上のつまずきと手立て</p> <p>第5回：陸上の典型教材からの学び（グループディスカッション）</p> <p>第6回：陸上の既存教材に対する検討（グループディスカッション）</p> <p>第7回：陸上の教材・教具の作成（新たな開発）</p> <p>第8回：陸上の教材・教具の工夫（既存教具の応用）</p> <p>第9回：陸上の指導案作成のポイント</p> <p>第10回：陸上の指導案の作成</p> <p>第11回：陸上の指導案の検討（グループディスカッション）</p> <p>第12回：陸上の指導案の修正</p>			

第13回：陸上の模擬授業

第14回：模擬授業の振り返りを通じた既存の教材の工夫および新たな教材の開発

第15回：振り返りの発表（プレゼンテーション）とまとめ

定期試験

スクーリングでの学修内容

スクーリングでは、作成した指導案をもとに、教材の開発や模擬授業を中心に行う。
（主に第5回～第9回、第11回～15回を含む）。

教科書

- ・スポーツ心理学を生かした「誰でもできる陸上競技」練習法・指導法 中学校・高校編（渋谷聡著、星槎大学出版会、2015年）
- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（文部科学省、東山書房）
- ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編・体育編（文部科学省）（文部科学省、東山書房）

参考文献

- ・気になる子の体育つまずき解決 BOOK 授業で生かせる実践 52（阿部利彦著、学研教育みらい、2015年）
 - ・体育の教材を創る 運動の面白さに誘い込む授業づくりを求めて（岩田靖、大修館書店、2012年）
- ※その他、必要に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。